講談サロン香織倶楽部
機関誌「かおりくらぶ」
発行　香織倶楽部
発行責任者 立木寅児
定価 100 円
発行日 2023.11.11

（講談５００年の話芸のエキスを現代へ！）
「強きをくじき、弱きを助ける」講釈師は、その昔「ジャーナリスト」
でもありました。

本日は第 21 回、講談サロン香織倶楽部発表会にお越しくださりありがとうございます。今年から広い北とぴあに会場を移し、出演者も多くお客様がお疲れになってしまうのではと心配しましたが、「面白くて、最後まで楽しめた」とのご意見に励まされる思いです。今回は講談教室を始めて３年目の与野・南風教室の皆さんが初参加してくださいました。

思えば香織倶楽部が発足して 16 年目。その間、日本は様変わりしてしまいました。平和主義、専守防衛がいつの間にか疎かにされ、円安、物価高にあえぐ国民が眼中にないかのような政治が続き、軍拡増税に舵を切った日本政府。ウクライナ戦争は泥沼化し、この度のマグマが爆発したかのようなハマスの攻撃にイスラエルはガザの人々を爆撃し多くの子供達が犠牲になっています。本来ならこういう時に憲法９条の理念を持って仲介の労を取るのが日本の役目なのですが‥残念です。私たちはあきらめることなく戦争はやめろと訴え続けて参ります。今回は生徒さんたちが自ら創作、あるいは脚色した社会派新作も楽しみにおつきあいください。生徒さんたちが自分たちのペースで自分たちの語りたいことを自分たちの声と言葉でたっぷり表現します。皆様に心から楽しんでいただけましたら幸いです。

神田香織 HP

「闘いは明るく楽しくしつっこく」
「あきれ果ててもあきらめない」

はだしのゲン

いまこそ『はだしのゲン』を生かそう神田香織（講談師）

『はだしのゲン』は原作者の中沢啓治さんがご自身の被爆体験をもとに一九七三年から「週刊少年ジャンプ」で連載された自伝的作品です。私は一九八六年にこの作品を講談化して以来、講談師人生の大半をゲンとともに歩んできました。作品の素晴らしさを全身で感じてきただけに、広島市教育委員会が『はだしのゲン』を小学三年生の平和教育教材から削除するというニュースには衝撃を受けました。なんでも、「浪曲で日銭を稼ぐ描写は現代の児童に馴染まない」「他人の池から鯉を釣る場面が、窃盗を助長する」ため、説明が必要で「漫画の一部引用では被爆の実態に迫おりりにくい」のだとか。私は十年前、島根県松江市教育委員会が学校図書館での閲覧を制限しようとした事件を思い出し、すぐに SNS に怒りの声をあげました。

「被爆の実態に迫りにくい」とのことですが、逆です。被爆の実態をリアルに表現し、「自分の身に起きたら」と想像させる力がある漫画だからこそ世界中で読まれているのです。また「浪曲の説明が大変」？　浪曲は日本の三大話芸の一つです。その時代の空気感がよくわかるし、ついでに講談についても子どもたちに教えて欲しいところです。投稿には多くの賛同をいただきました。たまたま広島県三次市に講談教室の生徒がいました。彼と、「教科書問題を考える市民ネットワーク・しひろしま」が中心となり、削除撤回を求める電子署名を開始。「はだしのゲン」緊急講談会も企画してくれました。こうして三月四日に緊急講談会開催の運びとなり、ほぼ満席の百二十人が参加。新聞、TV の取材も各社集まり、関心の高さが窺われました。講談後に登壇した被爆者の元高校教諭、豊永恵三郎さん（86）は「戦争は教育から始まる」ときっぱり。続く意見交換も熱気を帯び、小学校の『はだのゲン』、中学校の『第五福竜丸』削除のみならず、高校でも中沢先生のインタビューが二ページから一ページに減らされ、被爆体験の部分が抜けてしまったとの報告がありました。広島で一体、何が起きているのでしょうか。講談「はだしのゲン」は、サイパン玉砕の戦跡を見たのがきっかけで、一九八六年八月に国立演芸場で産声をあげました。

私が舞台俳優を目指していた頃、発声法の勉強のために二代目神田山陽師匠の元に通い始めたのが講談との出会いです。独特の力強い発声法を学ぶうち、一人芝居のように演じる楽しさに触れ、一年後には講談協会に所属し、前座修業に入りました。三年間の修業を終え、プロとしてスタートする「二ツ目」に昇進した時、友人たちとサイパンへ遊びに行きました。バンザイクリフなど戦跡を見学する中で「戦争」をテーマに講談を作ろうと思い立ちます。帰国後に沖縄、広島、長崎と戦跡を巡り広島平和記念資料館の売店で漫画 『はだしのゲン』を見つけたのです。戦争原爆の悲劇を力強く元気に訴える作品はこれだ！と確信。初演を聞いた被爆者の方からは「自分たちは年老いてゆく、代わりに伝えて」と言っていただきました。以来、三十七年語り続けています。

中沢先生が「私たちの壮絶な体験を踏み台にして、幸せを噛み締めて生きて欲しい」と常々仰っていた通り、その魅力は、思い切り想像力を刺激し、五感に訴え、ゲンたちの「生き抜く力」に触れられることにあります。毎回の講談で反響の大きい場面。ゲンは、家の下敷きとなった父に「逃げろ！」と言われ、身重の母と猛火から逃れ、直後に生まれた赤ん坊にこう叫びます。「もう二度と戦争なんかさせんぜ。わしゃお前を守ってやる！」。こうした描写に大人も子どもも、食い入るように物語に引き込まれます。漫画は読むことで、講談は聴くことで、それぞれの感動や疑問が「芯」となり「考える力」が培われます。馴染みのなさや、いまの常識とかけ離れた行動は、かえって読み手や聞き手の想像力を培い、戦争原爆の悲劇を力強く訴えるのではないでしょうか。

ウクライナ戦争でロシアが核兵器使用に言及したいまこそ、平和教育に欠かせない作品です。いまはどう考えても削除ではなく、『はだしのゲン』を生かすとき。削除撤回を求める五万五千超の電子署名を広島市教委に提出しました。講談「はだしのゲン」全国キャンペーンにも取り組んでいます。応援お願いします。

いま、語る

反戦テーマに高座次々

講談師
神田 香織さん

〈主宰する講談教室のメンバーと7月半ば、第2次大戦で亡くなった画学生の遺作を展示している長野県上田市の「無言館」を訪れた。旧知の窪島誠一郎さんが洋画家の野見山暁治さん（6月22日死去）から戦死した美術学校の仲間の家を訪ね歩いたときの話を聞き、遺作を集めて建設した〉

風景画や自画像、家族の肖像画などが整然と並び、祖母を描いた絵もあります。画学生が生まれた年と場所、ルソン島やニューギニアといった戦死、戦病死した場所に加え「フランスに留学」などの情報も付記され、絵を立体的に観賞できます。

曽宮俊一の油彩画「風景」には、画家の父親が晩年まで俊一のことを話さず、90歳を過ぎて一度だけ「悔しい」と漏らしたというエピソードが添えられていました。

大事に育てた子が召集令状という紙切れ1枚で戦場へ送られ、帰ってこない。遺骨さえ戻らない人までいます。親の心情を察するに悔しくて腹が立ってしょうがない。これほど甚だしい人権侵害があるでしょうか。「胸をえぐられる」と感想を述べた講談教室のメンバーもいました。

戦争を巡る新たな理不尽を知ったからには、講談にして多くの人に伝えていきたい。無言館を出たら無言ではいけない、話さないといけないとの思いです。

かんだ・かおり　1954年、福島県生まれ。81年に講談師の二代目神田山陽さん（2000年死去）に入門し、89年に真打ち昇進。「ビリー・ホリデイ物語」など一人芝居の要素を取り入れた独自の講談で新境地を開く。社会派講談の第一人者でもある。

〈大戦末期、本土決戦に備えて天皇直属の最高軍事機関「大本営」を長野県松代町（現長野市）へ移す計画が立てられ、終戦までの約9カ月で10キロ余りの地下壕が掘られた。その「松代大本営」の一部も見学した〉

地下壕の岩に触ったときの冷やっとした肌感覚が手に残っています。80年近くも前に、こんな硬い岩をどうやって10キロも砕いて掘り進んだのか。

ガイドさんによると、多くの朝鮮人が突貫工事に動員され、重労働なのに食事は粗末なコーリャンばかり。けがをしても病院へ連れて行ってもらえず、亡くなる人が相次いだといいます。戦争では、いつも弱い立場の人たちが犠牲になります。

20万人近い日本人が死んだ沖縄戦は、松代大本営が完成するまでの時間稼ぎだったそうです。ここで感じたショックと怒りも伝えていきます。

〈1984年にサイパンへ旅行した際、多くの日本人が「天皇陛下万歳」と叫んで身を投げた断崖「バンザイクリフ」などの戦跡で「生まれる時代がずれただけでこんな不公平があるのか」と考えた。それが講談で戦争を語るきっかけとなった〉

帰国後、漫画家の中沢啓治さん（2012年死去）が広島で被爆した体験を基に描いた「はだしのゲン」を、本人の許諾を得て語り始めました。今年は、広島市教育委員会が愚かにも平和教育の教材から「ゲン」を削除したので、広島をはじめ各地に呼ばれ「ゲン」の講談を演じています。

「沖縄戦―ある母の記録」や東京大空襲を生き抜き「リンゴの唄」をヒットさせた「並木路子物語」なども語ってきました。安全保障法制や防衛費の増加などに危機感を持ち、再び戦争へ向かわせないという気持ちでやっています。

（聞き手と写真＝共同通信編集委員・竹田昌弘）

＝随時掲載

初演（1986）から 37 年を超え、全国で 10 万人が感動した　神田香織　代表作

講談「はだしのゲン」

「まったく、戦争や大災害の前で人間ははかない存在かも知れません。が、決してあきらめるのではなくゲンのように『来るなら来い！』という気待ちで前向きに生きてゆきたいと私は願っております。」

時代を力強く生きぬくゲンの姿を通じて反戦反核を訴えたヒット作品
神田香織が語り尽くす立体講談

「はだしのゲン」原爆投下のその日まで　（前説 20 分　本編 60 分）
スッタフ　３人

米軍ジェット機墜落事件
「哀しみの母子像」〔60 分〕

世界がどんなに平和でも、人には哀しい夜がある。それは愛するものとの別れ。まして理不尽に殺されるような目に遭ったら、その哀しみ、怒りを、どこへぶつければいいのだろう。

原作「ジェット機事故で失った娘と孫よ」
七つ森書館　土支田勇著
講談「哀しみの母子像」60 分
作・構成：神田香織・タチキトラジ
企画制作：オフィスパパン

幕末期の文久２年（1862 年）頃から歌い始められたとされる、代表的なしりとり歌

牡丹に唐獅子、竹に虎
虎を踏まえて和藤内
内藤様は下がり藤
富士見西行うしろ向き
剥き身、蛤、馬鹿、柱
柱は二階と掾の下
下谷上野の花鬘
桂文治の噺家で
でんでん太鼓に笙の笛
閻魔は盆とお正月
勝頼様は武田菱
菱餅三月花祭り
祭り万燈、山車、屋台
鯛に鰹に鮪、鮪
倫敦、異国の大港
登山するのはお富士さん
三遍廻って煙草にしょ
正直正太夫、伊勢の事
琴に三味線笛太鼓
太閤様は関白じゃ
白蛇の出るのは柳島
縞の財布に五十両
五郎十郎曽我兄弟
鏡台 針箱 煙草盆
坊やは良い子だねんねしな
品川女郎衆は十匁
十匁の鉄砲二つ玉
玉屋は花火の大元祖

江戸しりとり歌（講談教室テキスト）

宗匠の出るのは芭蕉庵
あんかけ豆腐に夜鷹、蕎麦
相場のおかねがどんちゃん
ちゃん
チャンやおっかあ四文おくれ
お暮が過ぎたらお正月
お正月二日の宝舟
宝舟には七福神
神功皇后竹ノ内
内田は剣菱七つ梅
梅松桜は菅原で
藁で束ねし投げ島田
島田、金谷は大井川
可愛けりゃこそ神田から通う
通う深草百夜の情け
酒と肴で六百出しゃまよ
ままよ三度笠横たにかぶり
かぶり縦に振る相模の女
女やもめに花が咲く
咲いた桜になぜ駒繋ぐ
繋ぐかもじに大象も止まる
止まる麦わら赤とんぼ
牡丹に唐獅子、竹に虎

スケジュール